



2 イベント分類の設定

- [2 イベント分類の制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [2 イベント分類について \(1 ページ\)](#)
- [2 イベント分類の設定 \(2 ページ\)](#)
- [例：2 イベント分類の設定 \(2 ページ\)](#)
- [2 イベント分類の機能情報 \(3 ページ\)](#)

2 イベント分類の制約事項

2 イベント分類には次の制約が適用されます。

- 2 イベント分類の設定は、エンドポイントを物理的に接続する前に行っておく必要があります。または、電力を供給しているポートの手動 shut/no-shut を行います。
- ポートへの電力供給は MCU ファームウェアのアップグレード時には中断され、ポートはアップグレード直後にバックアップされます。

2 イベント分類について

クラス4デバイスが検出されると、IOS は、CDP または LLDP のネゴシエーションを行うことなく 30W を割り当てます。これは、リンクがアップする前であっても、クラス4の電源デバイスは 30W を得ることを意味します。

また、ハードウェアレベルで、PSE は2 イベント分類を行い、これにより、クラス4PD はハードウェアから 30W を供給する PSE の能力を検出し、それ自体を登録することができます。また、CDP/LLDP パケット交換を待つことなく最大 PoE+ レベルまで移動できます。

2 イベントがポートで有効になったら、ポートの遮断または開放を手動で行うか、または PD を再度接続して IEEE 検出を再度開始する必要があります。2 イベント分類がポートで有効になっている場合、クラス4デバイスの電力バジェット割り当ては 30W です。その他の場合は 15.4W です。

2 イベント分類の設定

2 イベント分類についてスイッチを設定するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface interface-id 例： Device(config)# interface gigabitethernet2/0/1	設定する物理ポートを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	power inline port 2-event 例： Device(config-if)# power inline port 2-event	スイッチで 2 イベント分類を設定します。
ステップ 5	end 例： Device(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例：2 イベント分類の設定

次に、2 イベント分類を設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Device(config-if)# power inline port 2-event
Device(config-if)# end
```

2 イベント分類の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1:2 イベント分類の機能情報

機能名	リリース	機能情報
2 イベント分類	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	クラス 4 デバイスが検出されると、IOS は、CDP または LLDP のネゴシエーションを行うことなく 30W を割り当てます。これは、リンクがアップする前であっても、クラス 4 の電源デバイスは 30W を得ることを意味します。

